

夫婦関係と母親の育児態度：自由回答による分析

溝田, めぐみ

九州大学大学院：博士後期課程2年

<https://doi.org/10.15017/1016>

出版情報：飛梅論集. 2, pp.17-30, 2002-03-27. 九州大学大学院人間環境学府発達・社会システム専攻
教育学コース

バージョン：

権利関係：

夫婦関係と母親の育児態度

—自由回答による分析—

溝 田 め ぐ み*

I. 問題の所在

本研究の目的は、夫婦関係と母親の育児意識及び態度との関連を明らかにすることにある。

近年、母親の育児態度に関する様々な問題が各方面から聞かれる。これまでは、育児を女性の生得的能力とする認識のために、母親の育児能力そのものについて吟味検討する姿勢を欠如し、母親の意識・感情・行動を画一的なものとして把握してきた⁽¹⁾。つまり、母親には母性が先天的に備わっていると考えられ、育児の問題はもっぱら母親個人の問題であるとされてきたのである。しかし、母親の育児困難や、育児ノイローゼ、虐待など、育児に関する様々な問題の増加にともない、母親の育児能力に対する支持条件を再検討する必要性が出てきた。

育児に対して悩みや不安を抱く母親が増えてきた背景には、様々な社会的背景が考えられる。

例えば、きょうだい数の現象があげられる。きょうだいの多かった時代は、弟や妹の面倒をみる中で自然と乳幼児に接する機会があった。しかし現在では自分自身が子どもを産んで初めて赤ん坊を抱いたという母親も少なくない。

また、産業化、都市化の中、核家族化も進み、育児経験の乏しい母親が孤立した状態で育児を行っている場合も多い。昔なら同居している母や義母といった存在があったが、核家族化が進んだ中、そうした身近なアドバイザーがいる場合は少なく、都市化が進んだ社会では近隣関係も薄い。

その一方、マスメディアにおいては育児に関する情報が氾濫している。テレビや雑誌、育児書において様々な情報が簡単に入手できるが、豊富な情報と選択の幅が増えたことがかえって母親を悩ませている場合も多いのである。

また、牧野（1982）の数量的調査では、夫婦関係の有り様と育児不安の関係が大きいという結果がでている。

そこで本稿は、夫婦関係に焦点をあてる。そして、母親を対象とした調査票の自由回答欄に記述された父親に対する母親の意識を分析することによって夫婦関係と母親の育児態度との関連を明らかにすることを目的としている。自由回答欄の記述を分析することは母親の生の声がありのままに記述されているだけに数量的データでは見ることのできない現代の母親の現実を浮き彫りにすることができると思われる。

*九州大学大学院博士後期課程2年

Ⅱ. 分析の枠組み

牧野（1982）の育児不安の調査では、母親の育児不安には父親と一緒に子育てをしてくれていると母親が感じとれるかどうかの問題であるとしている。つまり、父親の育児への責任意識を母親が感じ取っていることが重要なのである。そして、この父親の責任意識を母親が感じるかどうかは父親の育児への参加時間の量には関連しないと牧野は述べている。つまり、父親が子どもをお風呂に入れたりおしめを代えたりといった具体的な形で育児参加をすることよりも夫婦関係の有り様が重要なのである。

そこで、本研究では夫婦関係の有り様を、夫婦間のコミュニケーション頻度と母親の育児に対する父親の理解度から捉えようとした。コミュニケーションは夫婦関係そのものである。しかし、コミュニケーションの頻度が高いからといって夫婦が相互に理解しているとは限らない。夫婦間のコミュニケーション頻度と理解度は別次元のものである。そこで、この2軸で捉えるのである。そしてこの2軸をクロスさせて4つのタイプに分けると、以下のようになる。

I型：夫婦間のコミュニケーション頻度が高く、父親の育児理解度も高いタイプ

II型：夫婦間のコミュニケーション頻度は高いが、父親の育児理解度は低いタイプ

III型：夫婦間のコミュニケーション頻度が低いが、父親の育児理解度は高いタイプ

IV型：夫婦間のコミュニケーション頻度が低く、かつ父親の育児理解度も低いタイプ

この4タイプの夫婦関係にしたがって調査研究を行っていくのであるが、それぞれのタイプの特徴を仮説的に述べると以下のようである。

I型は夫婦間のコミュニケーション頻度が高いと母親は感じており、なおかつ育児の大変さに対する父親の理解度も高いと母親は感じているタイプである。そのため、母親の育児不安は最も低いタイプとなる。

II型は、夫婦間のコミュニケーション頻度が高いと母親は感じているが、育児の大変さに対する父親の理解度は低いと母親は感じているタイプである。つまり、夫婦間のコミュニケーションの多さが父親の育児理解度に繋がっておらず、ディスコミュニケーション状態にあるとも考えられる。当然、母親の育児不安は高くなる。

III型は夫婦間のコミュニケーション頻度が低いと母親は感じてはいるが、育児の大変さに対する父親の理解度は高いと母親は感じているタイプである。このタイプの母親は父親との少ないコミュニケーションの中からも父親の育児に対する理解を敏感に感じ取っているか、もしくは夫婦間のコミュニケーション以外のなにかから父親の育児に対する理解を感じているのだろう。そして、このタイプの母親は、育児不安は高くない。

IV型は夫婦間のコミュニケーション頻度が低いと母親は感じており、育児の大変さに対する父親の理解度も低いと母親は感じているタイプである。夫婦間のコミュニケーション頻度も父親の育児理解度も低いため、当然母親の育児不安は最も高いタイプである。

Ⅲ. 調査の概要

調査の対象は、福岡市内の保育園に在園している三歳未満児の母親である。しかし、保育園の母親は有職者が多いと思われたので、専業主婦の母親をサンプルとして取り上げるため、福岡市内にある育児サークルに参加している母親も対象とした。

保育園児の母親に対しては、園を通じた留置調査を実施した。育児サークルの母親に対しては、育児サークルの代表者を通して調査票を配布し、記入後、サークルのメンバーである被調査者各自で返送してもらった。調査対象者数、有効回収票、回収率はそれぞれ462人、1,204人、388票、621票、84.0%、51.6%であった。したがって、全体では調査対象者数1,666人、有効回収票1,009票、回収率60.6%であった。調査時期は、1999（平成11）年10月から12月上旬にかけてである。

Ⅳ. 調査結果の分析

(1) 自由回答記入者の属性

さて、自由回答⁽²⁾を分析するのであるが、自由回答記入者は1,009人のうち335人で33.2%であった。この335人を上記の枠組にしたがって区分すると、表1のようになる。

なお、育児不安の集計の仕方を簡略に述べると⁽³⁾、われわれは育児不安を育児についての不快感情、子どもの成長・発達についての不安、母親自身の育児能力に対する不安、育児負担感・束縛感の4タイプ⁽⁴⁾に分け、それぞれに該当する下位項目17を考え、その回答を3段階で評価させた。そしてその回答項目にウェイトをつけ、育児不安の高低を判定した。

また、育児のことに関する夫婦間でのコミュニケーション頻度（「あなたのご主人と子どものことについてよく話をしますか」⁽⁵⁾と母親の育児に対する父親の理解度（「あなたのご主人は育児が大変な仕事だということをどのくらい理解していると思いますか」）を4つのタイプに類型化したのであるが、その方法は以下のようなものである。それぞれに対する回答を、「よく話をする（よく理解していると思う）」、「ときどき話をする（少しは理解していると思う）」、「忙しくてあまりな話をする（あまり理解していないと思う）」、「忙しくてぜんぜん話をする（ぜんぜん理解していないと思う）」の4段階で設定し母親にたずねた。そしてそれぞれの回答項目の前二者を「高い群」後二者を「低い群」と統合し、コミュニケーション頻度と理解度をクロスさせ4タイプを設定した。

さて、自由回答者である母親の属性をみていこう。（表2）まず、年齢であるが、タイプ別による差はあまりなく30～34歳がどのタイプも多くみられた。職業では、いずれのタイプも専業主婦の割合が高かった。そして子どもの人数では、I型からⅢ型では子ども1人の割合が高いのに対し、Ⅳ型だけは逆に2人以上の割合が高かった。

表1 夫婦関係のタイプと母親の記述内容 (%、()内は実数)

| | 育児についての不快感 ** | | 成長・発達についての不安 | | 育児能力に対する不安 | | 育児負担感・拘束感からの不安 ** | | (N) |
|------|---------------|------|--------------|------|------------|------|-------------------|------|------------|
| | 低い | 高い | 低い | 高い | 低い | 高い | 低い | 高い | |
| I型 | 44.8 | 55.2 | 65.2 | 34.8 | 56.9 | 43.1 | 64.1 | 35.9 | 100.0(280) |
| II型 | 32.2 | 67.8 | 65.3 | 34.7 | 53.7 | 46.8 | 53.7 | 46.3 | 100.0(48) |
| III型 | 44.7 | 55.3 | 64.1 | 35.9 | 43.6 | 56.4 | 69.2 | 30.8 | 100.0(380) |
| IV型 | 26.1 | 73.9 | 54.3 | 45.7 | 47.8 | 52.2 | 45.7 | 54.3 | 100.0(268) |
| 全体 | 42.0 | 58.0 | 64.7 | 35.3 | 55.4 | 44.6 | 61.9 | 38.1 | 100.0(976) |

(**:p<.01)

注) 無回答・不明を除く。以下同様。

表2 自由回答の母親の属性 (%、()内は実数)

| | 年齢 | | | 職業 | | 子どもの人数 | | (N) |
|------|-------|--------|-------|------|------|--------|------|------------|
| | 29歳未満 | 30~34歳 | 35歳以上 | 専業主婦 | 有職者 | 1人 | 2人以上 | |
| I型 | 31.4 | 47.1 | 21.5 | 60.8 | 39.2 | 60.8 | 39.2 | 100.0(102) |
| II型 | 33.3 | 33.3 | 33.3 | 83.3 | 16.7 | 66.7 | 33.3 | 100.0(12) |
| III型 | 34.8 | 44.5 | 20.7 | 70.2 | 29.9 | 55.6 | 44.4 | 100.0(135) |
| IV型 | 25.6 | 40.6 | 33.8 | 62.4 | 37.6 | 35.3 | 74.7 | 100.0(86) |
| 全体 | 31.4 | 43.8 | 24.8 | 65.8 | 34.2 | 52.4 | 47.3 | 100.0(335) |

(2) 自由回答の内容

自由回答に書かれていた内容を分類して各タイプ別に見たものが表3である。「母親自身」、「夫婦関係」、「子ども」、「その他の家族」と「家族」について書いたものがおおくみられた。「その他の家族」とは母親、父親、そして子ども以外について書かれ、主に姑や親戚について書かれたもの

が多かった。つづいて、「社会一般」、「遊び環境」、「居住環境」といった「環境」についての記述も多くみられた。特に、行政や世間一般に対して書かれた「社会一般」についてのものが目立った。さらに、他の親についての「親一般」と、育児のあるべき姿を書いた「育児論」については「しつけ」について記述しているという点で共通していた。

表3 自由回答の内容 (%, ()内は実数)

| | 家族 | | | | 環境 | | | しつけ | | その他 | (N) |
|------|------|------|-----|--------|------|------|------|-----|------|-----|------------|
| | 母親自身 | 父親 | 子ども | その他の家族 | 社会一般 | 遊び環境 | 居住環境 | 親一般 | 育児論 | | |
| I型 | 25.7 | 6.2 | 4.4 | 4.4 | 27.4 | 8.8 | 3.5 | 7.1 | 3.5 | 8.8 | 100.0(113) |
| II型 | 19.0 | 14.3 | 4.4 | 4.8 | 19.0 | 4.8 | 4.8 | - | 28.6 | - | 100.0(21) |
| III型 | 45.0 | 3.4 | 4.8 | 0.7 | 20.8 | 10.1 | 4.7 | 3.4 | 5.4 | 2.0 | 100.0(149) |
| IV型 | 25.5 | 17.3 | 4.7 | 1.8 | 24.5 | 4.5 | 1.8 | 6.4 | 10.0 | 2.7 | 100.0(110) |
| 全体 | 32.6 | 8.7 | 4.8 | 2.3 | 23.7 | 7.9 | 3.6 | 5.1 | 7.4 | 4.1 | 100.0(393) |

(3) I型の自由回答

次に、各夫婦関係のタイプによる母親の自由回答をみていこう。ここでは、紙片の関係からより記述の多かった「夫婦関係」、「母親自身」、「社会一般」について見ていくことにする。まず、I型の母親の自由回答からみていこう⁽⁶⁾。

「夫婦関係」

- 【1】「確かに育児は大変かもしれませんが我が家では主人が（大変）協力的ですので疲れも半減します。それが気持ちの安定につながって、子どもにも悪い影響は及ぼしていないのではと思います。」(30～34歳、専業主婦)
- 【2】「主人もよく話を聞いてくれたり、手伝ってくれたり子供のこともとてもかわいがってくれますので、自分の中にも余裕が出てきているのではないのでしょうか。やはり主人と家庭生活や子育てについてよく話をし、考えが同じであるということが大切だと思っています。ただ急なときに、安心して子どもを預けたり協力してもらえらるほど遠慮のない関係の人というのがなかなかいないので、それだけが少し不安です。」(25～29歳、専業主婦)
- 【3】「私は29歳主人は38歳、年齢差もあり(?) 日常はいつもおだやかで育児、家事にも非常に

積極的に協力、助けてくれて幸せな家庭を絵に描いたよう。休日や仕事が早く終わった日は食事の準備を娘も含め3人でして、食事の後かたづけは主人、風呂も主人が入れてくれる。……なんて私は恵まれているんだろう。それでもお互い育児&家事&仕事（主人）でストレスもたまり、時にはケンカもする。やはりお互い自分の時間自分の世界が必要なのだ。主人は仕事で1/3は日本各地を飛びまわり、そのホテルでひとりになれる。が私は娘が寝た時。しかも昼寝は家事の時間で、夜21:30～ぐらいがようやく私の時間。たった1～2時間でしかもつかれきっている。主人も家にいないので話す相手もない。」(25～29歳、専業主婦)

これらの母親に共通しているのは、父親と育児のことに関するコミュニケーション頻度が高く、かつ母親の育児に対して理解度が高い父親であると思っている母親ということである。実際、【1】の「我が家では主人が（大変）協力的ですので疲れも半減します。」や【3】の「幸せな家庭を絵に描いたよう」といった自由回答の記述からも理想的な夫婦関係がみとれる。しかしそれでも、【2】の「安心して子どもを預けたり……遠慮のない関係の人というのがなかなかいない……。」とあるように、父親だけでなく、より広い支援を母親は必要としていることがわかる。また、【3】「やはりお互い自分の時間自分の世界が必要なのだ。」からは、父親が積極的に育児を助けてくれてそれに母親自身感謝しつつも、育児を離れた自分の時間を欲している母親というものをみとれる。

「母親自身」

- 【4】「結婚はしてもいいけど子どもなんてわずらわしいからどっちでもいいや、こういう女性が多いと思います。私もまさにそうでした。でも実際子どもを持つと、もうめっちゃめっちゃ可愛いし、育児はとても楽しいです。……もちろん育児は大変です。365日24時間休みなし。でも毎日違う発見があるし、子供はいろんなことを教えてくれます。育児とは育自であるとはよく言ったもので、去年より、ずっと強く優しくなっている自分がいます。仕事をしていた頃は仕事も好きでした。結婚しても働きたいと思っていましたが、でも今はもっと育児を楽しみたい。それもまた今しかできないことだと思っています。」(30～34歳、専業主婦)
- 【5】「子供と接する時間が少ないうえ、あわただしい時間の中でのスキンシップになるので、それで子供が満足しているのか少し不安になることもあります。年齢差のある姉妹なので二女に手がかかる分長女に我慢させている分がありすぎて……。どう長女と接すればいいのかとってしまいます。」

これらの記述からは育児に対する前向きな姿勢がうかがえるといってもよいだろう。しかし、【5】は接触時間が少ないことに対して子どもが満足しているのかという不安を感じている。

「社会一般」

- 【6】「子どもを持ってみて、よく感じる事は外出が不便だということです。バスは座れず、降れば段差が多く、デパートに行ってもエレベーターはベビーカーは乗れない事が多いし、トイレもオムツ替えの設備がなかったり……。食事にしても子連れでは限られてくるし……。近所

にしても、歩道に乗り上げて路上駐車している車などが邪魔で車道でベビーカーを押さねばならなかったり……この様なさまざまな理由が閉ざされた育児を強いる結果になっているのだと思います。」(25～29歳、専業主婦)

【7】「もっと社会全体で保育設備を充実させて欲しい。例えば、私は現在パートで働いて1年程になるが、第2子をと考えた場合、やっと慣れて、やりがいも見つけた仕事を産休という形ではなく、退職しなければならない。夫の会社にも育児休暇とかがあれば、もっとちがう形で仕事も続けられるかもしれないし、0才児保育の保育料などがもっと安ければ、女性ももう少し家庭と育児にしばられる事はないと思う。」(25～29歳、パートタイム)

【6】は、育児環境の施設面に対する不満であり、【7】は、育児環境の制度面に対する不満といえるだろう。

I型は夫婦間のコミュニケーション頻度が高く、母親の育児に対する父親の理解度も高い。つまり、I型の父親は母親の育児に対してかなり協力的なタイプである。しかし、以上みてきたように、育児に対して全く不安や不満がないというわけではない。しかし、それらの不安や不満よりも全体として育児に対する肯定的な意識・態度が勝っており、重大性という面からみても、I型の不安や不満は小さいものと言えよう。

(4) II型の記述内容

「夫婦関係」

【8】「育児を妻まかせの男の人が多くなっていると思う。子どもは2人で育てるものだと思うので、忙しければ話を聞くだけでも、いいと思う。これから先男の人にも、もっと育児を理解してほしいと思う。」(35～39歳、専業主婦)

母親は子どもの父親が「忙しければ話を聞くだけでも」よいとして、父親との頻繁なコミュニケーションを求めている。そしてその頻繁なコミュニケーションの先に「もっと育児を理解してほしい」と、理解を求めての発言なのではないだろうか。

「母親自身」

【9】「育児は実際に経験してみないと本当の大変さ、うれしさはわからないと思います。だから、家族の中から手をさしのべてくれる人がいるとないとでは母親のストレスの有無がはっきりします。だからサークルは子供と親だけの社会から仲間の社会を経験する事でいま話題の虐待がすべてとは言えないけど少なくなると思っています。」(40～44歳、専業主婦)

家族の支援を必要と感じながらもそれが得られない。そのため、この母親は、その代替に理解をしてくれる相手としてサークル仲間を捉えているようである。

「社会一般」

【10】「子連れの買い物はとっても大変なのでスーパーやデパート、商店街はもう少し一人で子供をつれていっても大丈夫なような施設(トイレ等)を充実させてほしいとよく思います。ベビーカーでの移動はとっても大変です。」(40～44歳、専業主婦)

【11】「最初に子育ての問題、とくに子どもへのぎゃくたいが増えているのに、市など公共施設の保育室でも0才児から預かってくれないのにはハラが立ちました。一番ストレスがたまるのは（1人目の子供の）動けない時代生後1年なのに!!」（30～34歳、専業主婦）

これらも、I型と同様に施設や制度面に対する不満を訴えたものであり、I型とII型でその記述内容にほとんど違いはみられなかった。

II型は、夫婦間でのコミュニケーション頻度が高いが母親の育児に対する父親の理解度は低いタイプである。父親の育児への協力が全くないわけではないが、母親の不安・不満はかなり高く、父親とのディスコミュニケーションの状態であることがわかる。

(5) III型の記述内容

「夫婦関係」

【12】「主人の育児参加は、あまり、（ほとんど）ないけれど、情熱をもって、仕事をしてくれているので、それに感謝しています。ただ自分のことは自分でしてくれるので（お茶を入れたり、出張準備も……）主人のことで時間をとられることはありません。本当に困ったときは、頼むと手伝ってくれるのでそれで満足しています。」（35～39歳、自営業）

【13】「我が家では夫の仕事が超人的に忙しく、不規則なので、育児の協力はありませんが、放棄しているわけではないので何かの時には助けてもらえるという精神的な信頼があるので、実質的に困ることがあっても大きな不満を感じる事は今のところありません。」（35～39歳、専業主婦）

【14】「主人は忙しくて子どもと接する時間がとても短いのですが接する時間だけはとても前向きにむきあっています。主人いつも、子供は親の言うとおりにほしませんが、親のするようにするといっています。だから子供の手本になるように自分自身努力しているようです。それはとても私にはえらいことだと感心しています。仕事の都合だとわかっていてももうすこし時間をとってほしいと思っています。そして自分自身どんなことが子供のためであるのかすこし勉強もしたいと思う。」（35～39歳、自営業）

【15】「育児は充分楽しいとは思っているのですが、やはり“自分の時間を持ちたい”“もっとうまい（よい子に育つ）育児のやり方があるのでは？”“こどもが言うことをきかない”などという諸々の思いがイライラとなって、ついこどもをしかってしまい、そのことで自己嫌悪に陥るというくり返しです。そういう時にちょっとした助言（夫、親、友人等）があったり、自分自身の気分転換ができるだけで事はそんなに深刻ではない!ということに気付き、好転していくような気がします。」（35～39歳、専業主婦）

【12】と【13】については母親は父親とのコミュニケーションの頻度は少なくとも理解があるため、いざというときには助けてもらえるという安心感があるようだ。

【14】はコミュニケーションが少ないながらも、父親の理解があり、さらにコミュニケーションの少なさを補おうと相方が努力している。そうすることによって母親の父親に対する信頼が生ま

れ、母親は育児に対して前向きに取り組むことが出来ている。

【15】は父親の育児に対する理解があり、育児を楽しんでいると感じながらも、ちょっとした助言が母親にとって大きな助けになることがあるとしている。

「母親自身」

【16】「夫に家事をやってもらえるのもうれしい事ですが、育児においても、まず夫が心がけることは、妻（お母さん）を大切にすることだと思います。育児でイライラする事もありますが、それは子どもの笑顔ですぐ忘れてしまいます。」（25～29歳、専業主婦）

育児において大切なのは、母親を大切にすることだとしている。そしてこの母親は、育児でイライラすることもあるが、それをすぐに忘れることが出来るのは、父親の理解があるからではないだろうか。

「社会一般」

【18】「日本はまだまだ育児に関する意識が薄いと感じる。自分が子供を持って初めてわかったことだが、エレベーターでしか移動できないベビーカーの母親より“われ先に”とエレベーターに乗り込もうとする人がなんと多いことか……。他にも、車を歩道にのりあげて駐車しているとベビーカーは通れない。ベビーカーの高さに車の排気ガスの出る管がでている。私自身、子どもを持つまでわからなかったという事実は非常になげかわしい。」（25～29歳、専業主婦）

【19】「産休・育休はたて前で、実際にとってる人はすごく少ない。妊娠したと報告したら当然辞めるものという雰囲気になってしまった。保育園になかなか入れないというのはおかしい。申し込むときにフルタイムで働いていなければまず入園できないと言われた。」（30～34歳、専業主婦）

【20】「6月に長崎から越してきましたが、福岡（中央区）の育児に対する協力の無さとてもがっかりしています。区役所の児童課（？）もあまり対応がよくないし、保育所も（入所以外の人に対し）部外者は関係ないというような対応ですし、児童館もやっと今月から2才以下の会が始まりましたが、それまでは全く2才以下の子供の、親に対しての対応がありませんでした。公民館で“ふれ合い広場”をしています。ただ母親が集まって話をしているだけ、誰も指導したり相談にのるような方はいませんでした。引っ越して来てから育児を楽しめるようにしようと情報を集めるため区役所や保育園、その他いろんな所に電話したりしましたが、なしのつぶて“うちではやってません”の一言でした。今ではあきらめて電話する気にもなれません。」（30～34歳、専業主婦）

【18】は、「ベビーカーの母親より“われ先に”とエレベーターに乗り込もうとする」等のマナーの悪さ、そして【19】は制度面、施設面の不満である。【18】は保育園などの施設に対する不満と行政の対応の無さ、不親切さに対する不満である。

Ⅲ型は夫婦間のコミュニケーション頻度は低い母親の育児に対する父親の理解度は高いタイプである。このタイプは不安・不満を抱えながらも、ある程度のバランスを保ちながら育児を行って

いる。I型に類似した傾向を示していると言えるだろう。

(6) IV型の記述内容

「夫婦関係」

【20】「主人の仕事が忙しすぎて“一緒に育児している”という実感が無い。夫本人としては決して育児に対して非協力的ではないが、なにしろ仕事優先になってしまっている。仕事が忙しすぎて会話すらまともにできないときもある。子供の事で相談したいと思っても“これ以上オレにどうしろというんだ!”という言葉がかえってくる始末。そういう時は、自分の親に電話でグチをこぼすか、友人と話して気をまぎらわす。でも、子供にやつあたりしている時がある。やはり、シワよせは弱い子供にいつている気がする。夫婦のことを友人とはいえず、他人においそれとは話も出来ず、両親にも心配かけては………と思い、自分の中でモヤモヤとしてしまうことがよくある。一人で泣いてみたり、物を食べてみたり………」(30～34歳、専業主婦)

これは、父親が仕事優先で、育児の相談が出来ない母親の事例である。そうした状況に対して母親は不満や不安を抱えながら、そのはけ口を①親、友人へのグチ②子どもに向かう③自分で処理(泣く、食べる)としているのである。

【21】「夫が子育てをほめてくれるわけでもほめて欲しいのでもないのですが、自分のがんばってる所を認めて欲しいという欲求がたまっています。夫婦仲の悪いわけでは決してないのですが、自分(私)といものを、この立場を認めてくれたら、もっと、子育てががんばれるのになぁーと思っています。」(30～34歳、専業主婦)

この母親は、父親の育児に対する理解の無さに対して不満をもっている。つまり、父親の理解があれば、それが育児の励みになることを示しているのである。

【22】「育児も家事もほとんど手伝うことはない夫にはもうあまり何も期待せず自分は子供が寝てからの時間を1人好きなことをして過ごしています。」(30～34歳、専業主婦)

この場合は、【21】の母親と違い、すでに父親が育児に対して理解をすることを諦めている。そして、自分の趣味をすることによって不満を解消しているのである。

【23】「夫は育児にはほとんど非協力的で“子供のしつけがなっていないのはおまえのせいだ”みたいな事を言ったりします。ストレスもかなりたまっているので何かスポーツでも始めたい今日この頃です。」(35～39歳、専業主婦)

この事例は父親が育児に対して理解がない上に、育児の責任を母親に押しつけてしまっている。こうした父親に対して母親は協力を諦めている。しかしながら不満はたまり、それを自分で解消しようとしているのである。

「母親自身」

【24】「今核家族化がすすみ、育児においても相談相手等いない為私達は育児書に頼りがちであるがそれ(育児書)を全てうのみにしない様自身気を付けてはいるが、近くの同年代の子ども

をみると知らず知らずに我が子と比べて内心焦ったりする所は自分でも嫌な所で同居するのが一番の解消法なのかもしれないが私は実父母とならいいが他の人とは考えたくもないのだが子どものことを考えるとやはり夫婦と子どもというより3世代同居がよいのかとも思わないことはない。」(30~34歳、専業主婦)

この母親は父親の理解が得られず、相談相手もない。そのため知識・情報を育児書に過剰に頼り、その結果情報過多に陥り、不必要な不安まで抱いてしまっている。

【25】「親のイライラで、多分すごい言葉を子に言っていたりする事がある。それをみて夫は何も感じないのかとたまに思います。子どもはとてもかわいいけど、自分のやり方（しかり方）で、情緒が安定してなく子供が怒りっぽかったり、すぐいじけたりと感じてしまうので将来的どんな子になるか不安にかんじることがたまにある。」(25~29歳、フルタイム)

この場合、父親の協力がないため、母親は一人で育児を行っている。自分が行っている育児に対して父親の反応もなく、自分の育児の仕方に不安をもっているのである。

「社会一般」

【26】「自宅のマンションから10数分の駅までの道のりは、歩道がアスファルトからレンガに変えられ、ベビーカーに対する振動はとても子供にとって心地よいものとは言えない。少子化の中でも決して子供が少ない地区なのに雨の日に子供を遊ばせる児童館の一つも作ろうとはしない行政に怒りを通りこして情けなさすら感じます。子供を安心して遊ばせられる公園の整備すら出来ないのに少子化問題を解決しようとしても無理があるというもの。」(35~39歳、専業主婦)

【27】「もっと公民館や公的な場所にふれあいサロンの様な場所をつくったり図書館や児童館を増して、小学生や中学生が集まってあそんだり、勉強したり大人の人とふれあえる場所、ドイツなどにはいろいろな職業にふれる時間があったりして、自分が将来なにになるか考えたりすると聞きます。育児は幼児にかぎらず先が長いと思います。」(30~34歳、専業主婦)

【28】「今の時代、核家族が進み、孤独の中で一人子育てをしている人が大勢いると思います。……そんな中で、母自ら外に多く出るよう努め、ひとりで悩まないよう子育て支援策を国や県そして地域に至るまで広く母子参加の場をもっと身近な所から提供してほしいと思います。」(35~39、専業主婦)

【29】「小学校で夜中近くまで学童保育をしてくれると助かります。……ディ・ケア・サービスももっと早い時間帯から遅い時間帯までであると助かります。」(35~39歳、フルタイム)

【30】「父親の育児への不参加は物理的・時間的制約によるところが大きい。長時間労働で子どもと夕食をとることはまれである。子どもが起きる前に出勤し、寝てから帰ってくるという生活は家族全員にとっての不幸だと思う。子どもは“パパは？”と喋ってなかなか父親と顔を合わせることも出来ない。労働時間の短縮があつてはじめて、人間らしい生活をするゆとりが生まれると思う。」(30~34歳、専業主婦)

【31】「育児休業制度など女性も結婚して出産しても働ける法律は整備されてきていると思います。しかし、実際に子供をあずけて働こうとすると保育園の定員（待機者が多い）入園の時期（途中入園が難しい）、保育時間など現実には厳しいとかんじています。」（25～29歳、フルタイム）

このように、Ⅳ型においても同様の制度面、施設面での不満がみられた。

Ⅳ型は、夫婦間でのコミュニケーション頻度も母親の育児に対する父親の理解度も共に低いタイプである。つまり、育児において父親の協力はほとんどない状態である。このタイプは育児に逃避的な母親が多く、父親の育児への協力を望みながらも、諦めている場合が多い。不安・不満が育児への肯定的な意識や態度を上まわることもあるようである。

V. まとめ

近年、母親の育児態度に関する様々な問題が聞かれるが、育児の問題は母親個人の問題ではない。母親の育児能力に対する支持条件を再検討することが現在急務の課題となっている。

そのため本研究では、母親の育児に関する自由記述を通して、夫婦関係と母親の育児態度との関連を見ていくことを目的とした。そして、育児サークルと保育園児の母親321名の育児に関する自由記述を元に分析を行った。

その結果、夫婦間のコミュニケーション頻度が高く、母親の育児に対して父親の理解があれば（Ⅰ型）、母親は父親の協力に対して感謝し、前向きに育児に向かっていることがわかった。しかし、父親の協力があればそれだけですべて満足できるというわけではなく、自分自身の育児能力に対して不安をもったり、絶え間なく続く育児の中で、気軽に預けられる相手や一人になれる自分の時間を欲しているということも明らかになった。

これとは逆に、夫婦間のコミュニケーション頻度も低く、母親の育児に対して父親の理解がなければ（Ⅳ型）、母親は父親に対して不満を持つ。父親への不満が子どもに向かうこともあり、育児からやや逃避的な態度を示すことになる。

そして、夫婦間のコミュニケーションが高く、母親の育児に対して父親の理解がない場合（Ⅱ型）は、Ⅳ型と類似した傾向を示し、夫婦間のコミュニケーションが低く、母親の育児に対して父親の理解がある場合（Ⅲ型）は、Ⅰ型と類似した傾向を示した。

また、夫婦関係のどのパターンの場合にもその記述内容がほとんど変わらなかったのが、施設面、制度面への不満であった。

〈注〉

- （1）大日向雅美『母性の研究』1988 4頁 川島書店 参照
- （2）調査票の自由回答には以下のようなお願い文をつけた。

夫婦関係と母親の育児態度

「なお、育児について、あなたが考えていることや普段、感じていることがありましたら、どのようなことでも結構ですからぜひお聞かせください。参考にさせていただきます。」

- (3) 住田正樹・田中理絵・溝田めぐみ「夫婦間のコミュニケーション頻度と育児不安」、日本教育学会第59回大会（名古屋大学）発表資料を参照されたい。
- (4) 育児不安測定尺度の詳細についても、住田他、「夫婦間のコミュニケーション頻度と育児不安」日本教育学会第59回大会発表資料を参照されたい。
- (5) 具体的には、「あなたは、ご主人と子どものことについて、よく話をしますか。しませんか。1つ選んで○をつけてください。」「あなたのご主人は、育児が大変な仕事だということを、どのくらい理解していると思いますか。1つ選んで○をつけてください。」
- (6) 母親の生の声を伝えるために、引用文は原文のまま載せている。

〔引用・参考文献〕

住田正樹、「母親の育児不安と夫婦関係」、『子ども社会研究』、1999、第5号、3-20。

牧野カツコ、「乳幼児をもつ母親の生活と〈育児不安〉」、『家庭教育研究所紀要』、1982、第3号、34-56。

牧野カツコ 「〈育児不安〉の概念とその影響要因についての再検討」『家庭教育研究所紀要』1988 No.10 23-31頁

本村汎・磯田朋子・内田昌江、「育児不安の社会的考察－援助システムの確立に向けて－」大阪
市立大学生活科学部紀要1985 第33巻12頁

大日向雅美、1999、『子育てと出会うとき』、NHKブックス。

社会保障研究所編『現代家族と社会保障』1994 東京大学出版会

**Marital Relation and the Attitude of Mothers' Child-Care :
The Analysis of Open-Ended Question**

MIZOTA Megumi

The purpose of this paper is to make it clear the relationship between marital relation and the attitude of mothers' childcare.

Makino (1982) cleared, marital relation is important for child-care anxiety by statistical research. So, this paper focus marital relation and clear the real mother by open-ended question. Then I made an investigation on child-care into 1666 mothers. (They are nursery pupil's mothers and mothers who participated in the child care circles.)

I classify four types under marital relation .

I : The degree of communication is high and the degree of fathers' understanding of mothers' child-care is high.

II : The degree of communication is high and the degree of fathers' understanding of mothers' child-care is low.

III : The degree of communication is low and the degree of fathers' understanding of mothers' child-care is high.

IV : The degree of communication is low and the degree of fathers' understanding of mothers' child-care is low.

I analyzed the relationship between these four types and open-ended question by mothers.

The various following points became clear as a result of the analysis.

When mothers have fathers' cooperation, they take child-care in a positive light. When mothers don't have fathers' cooperation, they take child-care in a negative light. But only fathers' cooperation is not enough for mother' child-care. Social support is necessary for mother's child-care, too.